

令和5年3月24日

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会(第1部会)

区分	内容
テーマ・事業名	きらめきサポートプロジェクト 【事業費予算 1,230 千円】
事業目的・概要	地域コミュニティの活性化や福祉、防災、文化振興など、様々な地域課題の解決につながる取り組みを地域の団体と協働で実施し、「きらめく秋葉区」に向けたまちづくりを目指す。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>(1)アキハフジンロックフェスティバル [ドタミファソラシ堂]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議: 10月13日(木)、11月10日(木)、12月14日(水)、1月25日(水) 2月22日(水) ・リハーサル 1月21日(土)、2月11日(土)、2月20日(月)、2月25日(土) 3月3日(金) 秋葉区文化会館 ・イベント 「アキハフジンロックフェスティバル」3月4日(土) 秋葉区文化会館 参加者316名 音楽ライブ、マジックショー、キッズダンス、絵本読み聞かせ。キャスト・スタッフとして応募した小学生も参加 <p>(2)クマ・イノシシなどの大型獣から命を守る安心安全なまちづくり [あきは害獣対策プロジェクト]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議: 7月28日(木)、11月7日(月)、2月3日(金) ・講演 「大型獣から身を守る講演」9月6日(火) 金津小学校 参加者347名(金津小中学校生徒及び教職員) 大型獣の特性や遭遇した場合の対処方法 ・訓練 「熊・猪 大型獣出没訓練」12月4日(日) 金津地区コミュニティセンター 大ホール 参加者31名 金津地域内の猪の発生状況、遭遇時の対策など身の守り方、防御姿勢・熊スプレーの使い方 ・紙芝居 小学校低学年及び未就学児を対象に、紙芝居による対処方法を伝える ・広報活動 金津地区における猪の出没状況や対処方法について新聞報道(10月1日新潟日報)

	<p>(3)秋葉地区周辺案内地図設置事業 [新津中央コミュニティ協議会] ・会議: 7月6日(水)、11月8日(火)、12月27日(火)、1月20日(金) 3月3日(金)、3月12日(日)、3月14日(火) ・案内地図設置①幸清水周辺②正法寺周辺の2か所:(上部に地図、下部に矢印表示 600×900mm QRコード付)</p> <p>(4)ぎゅっともつとずっと秋葉区フォトコンテスト2022 [一般社団法人新津青年会議所] ・秋葉区の小学生とその保護者が対象。秋葉区の魅力を再発見、再確認し、地域愛を醸成することを目的とするフォトコンテストを実施。 ・募集期間:8月1日(月)~31日(水) ・会議:6月28日(火)、8月26日(金)、9月8日(木) ・表彰式:10月15日(土) 秋葉区文化会館 練習室 応募161作品から大賞1作品、部門賞5作品、入賞44作品 計50作品を選定。 ・展示:秋葉区文化会館(9月21日~10月15日)、八帖二間(10月1日~10日)、秋葉硝子(10月6日~10日)、町屋ギャラリー薩摩屋(9月17日~10月16日)、新津駅連絡通路(10月1日~10月31日)、新津地域交流センター(10月16日~25日)、荻川コミュニティセンター、新津地区勤労青少年ホーム、新関コミュニティセンター、小合地区コミュニティセンター、金津地区コミュニティセンター、小須戸まちづくりセンター、小須戸地区ふれあい会館(10月16日~31日)</p>
<p>事業の評価</p> <p>地域課題の抽出方法や企画立案の評価、事業の公益性・実効性・効率性の評価など</p>	<p>【個別事業】</p> <p>(1)アキハフジンロックフェスティバル ・子育てママ達の孤独と孤立を癒す音楽会で、地域の子供達、ボランティア、朗読の方たちと関りを持っている。予算も具体的である。しかし、次年度以降の継続は委託料なしでは無理な気がする。 ・定期的なミーティングを自治協委員と一緒に濃密に行い、公演自体の発信や宣伝も上手く、3月4日の集客は早い段階で満席になっていて素晴らしい。</p> <p>(2)クマ・イノシシなどの大型獣から命を守る安心安全なまちづくり ・大型獣に対する危機意識の高揚と、大型獣が徘徊する地域を管轄する3コミ協(金津、山の手、新関)の連絡協調関係が強力に確立された。 ・区民から出た地域課題を基に実行され、区内主体で活動が進められた点は評価できると考える。また、連続で開催することで、主団体においては実践のノウハウが蓄積され、本事業以外での連携も生まれてきている点も評価できる。 ・今後に向けて、事業の実践による知識・スキルを住民同士で共有できるような仕組みづくりが課題である。</p>

(3)秋葉地区周辺案内地図設置事業

・秋葉山およびその周辺が、市民により身近になるように、平成 28 年度より分岐点地図や周辺案内地図を作成してきた。今年度は秋葉山の入口にある「幸清水公園内」と「正法寺境内」の、見過ごされている新津の偉人たちが眠っている墓碑や石碑を中心に紹介。この 2 地点は、JR 新津駅から秋葉山パノラマコースへの散策ルート上にあるが、殆どの人達が知らずに通り過ぎている。いにしへの偉人たちに思いを馳せ、町の歴史を学びながらゆっくりと散策を楽しんでいただこうとの思いでこの事業に取り組んだ。また QR コードを利用し、詳しい内容が分かるようにした。皆様方が少しは新津の偉人たちに興味をもって散策していただけるようになると考えている。

(4)ぎゅっともっとなんと秋葉区フォトコンテスト2022

・秋葉区の魅力がいっぱいの、小学生親子を対象とした取り組みは、素晴らしい内容であったが、既に完成された状態でのスタートとなっており、「自治協議会との協働」の観点からすると、単独で十分な活動ではないかと思われた。

・秋葉区の良さについて特にPRする条件等を提案(おすすめスポットでの撮影等)したが取り入れられず残念だった。自治協議会と協働できる余地が多いとはいえ、団体の単独事業として成立するテーマだった。

【全体を通して】

・事業をやりたいと思う人がいれば手助け出来る。個としては無理だが、区全体の課題としてやれるプロジェクトなので今後も続けてほしい。

・事業の公益性については、各エリア・内容ごとに特徴があったため、高いとはいえない。今後の自立的運営に向けた支援を検討する必要があると考える。

・実質的に、自治協と連携する必要がある事業なのかについては、長期的な視点で検討する必要がある。今後、審査の段階をより細やかにするか、対話を重ねるといった方法を改善していく必要がある。

・協働・連携を円滑にするためのコーディネーターが必要なのではないか。

・選定方法については検討が必要ではないか。募集要項も周知期間などが短く再考できると良い。

・せっかく自治協委員がともに協力して進めていくなれば、その関わったことを広く知ってもらうために、各事業のプロセスやイベント当日の様子などを、映像媒体で残しておき、秋葉区の魅力発信に活かしていければなお良い。”きらめき”というコンセプトがあるならば、各々きらめいている姿を素敵に記録として残していくべきと思った。

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会(第2部会)

区分	内容
テーマ・事業名	交通（地域の実態把握/地域の移動手段検討） 防災（防災講演会/防災手帳リニューアル） 【事業費予算 800 千円】
事業目的・概要	「秋葉区生活交通改善プラン」に基づき、地域の移動ニーズを把握・移動手段を検討するとともに、区内の公共交通情報を発信し利用促進を図る。 「防災士の会 秋葉支部」と協働で講座を開催し、「秋葉区防災手帳」の活用促進、地域ごとの防災意識の高揚を図る。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>【交通】満日地区生活交通支援 昨年度に引き続き満日地区に対し生活交通支援を実施した。 4月: 昨年12月に満日地区全家庭を対象にしたアンケートを集約 5月: 満日地区新任町内会長に生活交通支援の取組を説明 6月: 満日地区の福祉施設、秋葉区社協と生活交通支援について意見交換 7月: 生活交通支援は買物送迎として自動車、運転手、事故等の保険、連絡体制等の組織体制検討着手 8月: 満日地区、買物支援希望者の募集開始 9月: 買物支援希望者11名を12月に実施することで体制整備の協議 10月: 買物支援は12月6日、20日に試行で実施し、3月から毎月第2・4の月2回実施することで各福祉施設と調整 11月: 買物支援の行き先であるウオロク新津支店に挨拶 12月: 6日に9名の買物支援希望者を福祉施設自動車4台で送迎実施 20日は大雪のため中止 2月: 北区エリアバスタク見学 5名参加 3月: 買物送迎支援 14日9名、28日0名実施 4月に公共交通ガイド配置整備完了予定</p> <p>【防災】防災講演と防災手帳の刷新 5月: 防災講演会を新関地区で開催することを新関コミ協と調整 6月: 防災手帳の刷新は秋葉区内全小中学生に配布することでデザインの着手 7月: 防災講演会は村上地区の豪雨災害を教訓に秋葉区全地域対象で実施準備 8月: 防災講演会を10月15日開催で各地区の町内回覧で参加者を募る 10月: 10月15日、防災講演会を開催実施 78名の受講者 防災手帳を全小中学生に配布完了</p>

事業の評価

地域課題の区自治協議会提案事業
事業評価抽出方法
や企画立案の評価
事業の公益性・実
効性・効率性の評
価など

【交通】満日地区生活交通支援

○区自治協議会2部会7期からの困難な継続事業だったが、地域の NPO 法人である4か所の福祉施設の協力で買物支援を実行できたことは大きく評価できる。

○実現できたことは秋葉区社会福祉協議会の地域内にある福祉施設との協議が大きく、満日地区コミュニティ協議会、町内会、民生委員と福祉施設、社会福祉協議会、自治協議会の協働の絆が強く結ばれた。

○地域の生活交通に関わる課題の現状把握のため実施したアンケートでは、回収率が80%近くになり住民の関心の高さが伺われた。特に買物や通院で移動手段を望む一人暮らしや二人暮らしの高齢者が多いことが把握でき、そうした高齢者にたいする交通支援の必要性が大きいと把握できた。

○この事業で大きな課題は持続可能な送迎車の提供と運転手や保険、燃料費等だったが、福祉施設の活動で社会貢献が求められ悩んでいることが判り、課題の解決に繋がった。

○今後は満日コミュニティ協議会を中心に町内会や福祉施設の協働で持続拡大し、他の地域への拡大を期待したい。

○公共交通の情報発信し利用促進については4月にバス運行ダイヤの改定と運行エリア地図の表示範囲の拡大を検討し、各公共施設等に配備する予定で利用促進を期待したい。

【防災】防災講演会と防災手帳の刷新

○コロナ感染の中、講演会開催ができるか不安であったが実施できた意義は大きく、区民の防災意識の高さが伺えた。

○講演会は、第1部で県砂防ボランティア協会と防災士の会から「土砂災害の現状と対策」と「防災手帳の活用」を学び土砂災害の予兆を知り、第2部では、中野小路たかまる師匠の「防災漫談」を聞き、フレイル予防や避難の際に近隣の避難困難者を知るための見回り活動の大切さを学んだ。

○防災は一人ひとりの正しい行動が大切で、今後も継続的に防災活動を行う必要がある。

○小中学生用の防災手帳を作成し秋葉区内全小中学生に配布したことにより、各自が家に持ち帰って、家族と災害発生時の避難場所等を話し合い、手帳に記入することで家庭での防災意識の高揚が図られ、災害時の早期安否確認が期待できる。また、協力を得られた地域コミュニティ協議会を通じて各小中学校へ配布できたことは、地域と学校を繋ぐきっかけづくりに寄与したと評価できる。

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会(第3部会)

区分	内容
テーマ・事業名	<p>Akiha おとな大学 【事業費予算 911 千円】</p>
事業目的・概要	<p>秋葉区の特色や史跡・旧跡、魅力ある歴史を学んでもらうことで地域への愛着や興味関心をさらに高めるとともに、学びを次世代に引き継ぐ、未来につながる主体的な学びの機会とする。</p>
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>【おうち de もち麦cooking】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 第1回: 8月 3日 26 組発送 ② 第2回: 12月17日 15 組発送 ③ 第3回: 2月10日 30 組発送 <p>【里山トレッキング】</p> <p>11月13日(日)雨天中止 参加申込14名</p> <p>【歴史講演会】</p> <p>令和5年1月22日(日) @秋葉区文化会館 講師:新潟シティガイド 本田富義氏 参加者数87名</p>
<p>事業の評価</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content;"> <p>地域課題の区自治協議会提案事業 事業評価抽出方法 や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</p> </div>	<p>【 評 価 】</p> <p>① もち麦 cooking</p> <p>PR動画の制作・もち麦の歌や踊りなど、積極的な活動が行われた。もち麦ダンスでは自治協議会メンバーの意識が高揚した。オンライン方式の開催は評価できる。周知、PR方法に工夫が必要だが市のLINEによる募集は、効果的な手段と推察される。</p> <p>少しずつもち麦の存在を伝えることができ、引き続き活動していくことで、さらにもち麦をアピールできると思う。これによって、秋葉区の産業振興の一助になればよい。</p> <p>② 里山トレッキング&歴史講演会</p> <p>部会の目標である、区民が秋葉区の自然や、地理・歴史を知り、更に、愛着を持って若い世代や子どもたちに伝えていくなど、担い手を作っていくきっかけづくりができたと思う。</p> <p>健康ウォーキング向けの「菩提寺山コース」は自然を満喫しながら初心者でも登れる山であり、ガイドさん付きを計画した事は良かった。</p> <p>歴史講演会はやむを得ない事情で開催が延期となったが、市民の関心も高く、87名の市民が参加。会場の再調整など事務局と部員が協力して行うことができた。高齢者は地域の歴史に対して興味・関心を持っていることが確認され、過去の歴史を知り、郷土に対する関心を高めることができたものと評価できる。</p>

【今後への提案】

レシピ動画も、事業継続への条件整備となったことや矢代田小学校とのつながりを今後の展開に活用できるよう配慮が必要。

もち麦の効果をPRするためには健康講座を開催して知名度を上げることや、新しいメニューの開発やコンテストの実施も有効。2年目からは「もち麦をもっと知ろう」という視点も入れてもち麦の栄養学的な特性やレシピなど、更なる興味を引き上げてもらえるような手段が必要と考える。

また、里山トレッキングは同様の事業を区役所の他部署で行われたことから、関連事業の情報収集を行うなど連携することも必要。さらに、区内各地域の歴史的施設、景観を訪ね、そこに何故そのようなものが在るのかを学ぶツアー等の実施も効果的。

デジタル社会に対応する為のスキルを身に着ける講習会を開催し、多くの区民が自ら情報収集、学び、情報発信で活用できるような取り組みやコミ協と連携し、希望する地域の紹介動画作成を支援し、魅力を発信することも必要と考える。

【課題】

提案事業としての意義は、地域課題を明らかにし、その解決に向けた取組を行政に反映させることではないだろうか。この観点からの提案事業を企画する必要がある。

白雪もち麦の魅力を発信するため取り組んだが、区民の反応は鈍い。どうすれば関心を持ってくれるか？もち麦の消費には民間企業との協業が必要。産業振興課を主体として販路拡大を推進するなど区事業への発展的展開への検討が必要。Cooking を継続していく場合、材料の取扱いや適正な料金などの検討が必要。

里山トレッキングは、次年度同様の企画を行うのであれば、参加者に対しての連絡方法や雨天時の活動も同時に検討する必要がある。

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会(広報部会)

区分	内容
テーマ・事業名	コミュニティFMを活用した秋葉区自治協議会PR事業 【事業費予算 828 千円】
事業目的・概要	秋葉区ならではの取り組みとして、秋葉区のコミュニティFMを活用し、自治協議会の活動や自治協議会かわら版「あきはくはつものがたり」のPRを行う。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>■FM版「あきはくはつものがたり」 毎月第2水曜日の12時00分から30分番組の放送 (再放送は同じ週の土曜日9時から)</p> <p>■スポットCMの放送 8~3月:合計放送本数250本</p> <p>■かわら版「あきはくはつものがたり」を活用したPR2号/年(運営事業費) 第30号:R4.9.4発行、第32号:R5.3.19発行 第30号は約21,800部、第32号は約21,500部発行し、新聞折込および個別配送のほか、公共施設等に配置</p>
事業の評価 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin-left: 20px;"> 地域課題の区自治協議会提案事業 事業評価抽出方法 や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など </div>	<p>■コミュニティFMの活用</p> <p>○区民にとって身近なコミュニティFMを使っのての情報発信は自治協議会の活動を伝えるためには有効な手段であると思う。</p> <p>○自治協議会活動PR事業として、年間12回(再放送を含め24回)のFM放送トーク番組を行ったが、今後も継続すべきと思う。</p> <p>○それなりの成果・効果はあったものと推察するが、どれだけの方がその放送を聴取したのか、その反応を測る手立てがないことに、歯がゆさを感じた。</p> <p>○トーク番組や、自治協議会の認知度をさらに高める必要があると感じた。</p> <p>■かわら版「あきはくはつものがたり」の発行</p> <p>○途切れることのない自治協の活動や地域への情報発信を定期的に続けることができたこと、その発信を通じて、イベント等に参加していただく方々がたくさんいらっしゃったことについては、今年度の広報部会の活動が充実していたといえるのではと感じている。</p> <p>○新聞折り込みや個別配送などによる区内世帯への発送により、この紙媒体による広報紙としての認知度はかなり高いことが伺えた。</p> <p>○電子媒体に慣れていない人にとっては、紙媒体の「かわら版」が効果的だと思う。</p> <p>○作成プロセスにおいてより見易く自治協議会の活動内容が伝わるような紙面作りにやりがいをもって取り組むことができた。</p>

- 形に残る、読み返しができるのは、一過性にならず魅力だと思う。
- 最近の新聞離れの中、申込で「広報にいがた」と一緒に、自宅に届くシステムがあることを知ってほしいと思う。
- この発行を楽しみにしている高齢者も多いのではと感ずるため、もう少し高齢者向けの文字サイズや字体になっていても良いのではないかと思う。今後も継続していく必要を感じており、自治協の活動のPRに参加された一般の方々の声や活動風景をもっと掲載しても良いのではないかと思う。
- 4コマ漫画も取り入れることで読者が楽しむこともできるため、続けたい。

■全体を通して

- FM 版とかわら版「あきはくはつものがたり」の作成以外の情報発信もあるとさらに良い。
- 自治協議会の存在を知ってもらうため、皆さんでおそろいのポロシャツで「にいつ夏まつり」の「新津松坂流し」に参加するのも良いと思う。
- 若い世代、次世代の方々に発信していく媒体について、検討する必要があるように感じる。
- SNSや映像媒体を使った広報も検討したい。
- トーク番組については、認知度をあげ、自治協を広報するために、手立てを考えたい。(反応を求めるなど、まずは状況を把握する方法を検討したい。)
- かわら版について如何に手に取ってもらうかをさらに工夫したい。
- 読者の増加や読むまでの気軽さを求めることも必要。

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会（秋葉区ひな・お宝めぐり部会）

区分	内容
テーマ・事業名	秋葉区ひな・お宝めぐり 【事業費予算 800 千円】
事業目的・概要	秋葉区内の活性化。秋葉区内外の人の流れを生み出し、秋葉区を盛り上げる。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>10月 第1回部会開催、参加団体依頼開始、見込みで材料発注</p> <p>11月 参加団体数、つるし飾りの数を確定 第2回部会開催、材料配布、チラシ・ポスター・区だより等について検討 参加団体に向けて、説明会の開催、FMIにいつで流すCMの準備 のぼり旗の準備</p> <p>12月 チラシ・ポスターのデザイン確定、区だよりでPR、のぼり旗デザイン確定</p> <p>1月 第3回部会開催、町内会にチラシで回覧、美術館等3か所にひな壇を設置</p> <p>2月 秋葉区全域で、秋葉区ひなお宝めぐり開催（～3／5） 第4回部会開催（今年度の振りかえり）</p> <p>3月 次年度へ向けた事業評価</p> <p>■ つるし飾りの展示数 全149団体 253基</p> <p>■ つるし飾りの展示会場 新津中央交流センター、荻川コミュニティセンター、新関コミュニティセンター、小合地区コミュニティセンター、金津地区コミュニティセンター、小須戸ふれあい会館、小須戸まちづくりセンター、新潟薬科大学、新津健康センター、育ちの森、〈ひな壇のみ：新津美術館〉</p> <p>■ 秋葉区バス内の展示</p>

事業の評価

地域課題の区自治
協議会提案事業
事業評価抽出方法
や企画立案の評価
事業の公益性・実
効性・効率性の評
価など

【評価】

- 昨年に引き続き、秋葉区全域の事業として行うことができ、秋葉区を盛り上げることができた。
- 春のイベントとして定着しつつあり、地域の絆が強くなっている。参加する人たちが楽しむ様子が見られた。
- つるし飾りやひな壇飾りが、施設の利用者に好評だった。
- 地域内での交流から、家族内での交流にまで広がったという声もあった。

【課題・今後への提案】

- 第1回目の部会の開催を8月下旬から9月初め頃までにできると、余裕をもって動くことができるため、早めに取り掛かる。
- 巡回バスや周遊企画の検討を行う。
- ポスター・チラシの枚数、種類などについて検討する。(今回は、部会・新津中央・小須戸で3種類作成した。)
- 開催期間が妥当かどうか(時期や期間の長さについて)
- 事務局が行う部分と、委員が行う部分の役割分担について、明確にする。

各区自治協議会の活動・運営における

課題解決に関する情報共有

秋葉区自治協議会

秋葉区自治協議会では、委員より4つのテーマの中から1つ選択してもらい、各テーマに分かれて、ワークショップ形式で意見抽出を実施しました。

1. 区民アンケートについて

(メンバー：小山委員、田中委員、坂上委員、佐々木委員、金子委員)

(1) 目的について

- ・区民のニーズに応えるもの・区民の実態を把握するものがよい

(2) 方法について

- ・多様な世代（中学生以上にするなど）からの声を集める
- ・比較できるように、全区共通の質問項目を設ける
- ・アンケートに答えるとクーポンがもらえる等、回答率をあげる

(3) 活用について

- ・アンケートを活かすプロジェクトはあるか検討
- ・アンケートのための部会を設置、アンケート結果を全体で話し合う場を設ける
- ・秋葉区の住みやすさ改善などまちづくりにつなげる

(4) 具体例

- ・秋葉区の良いところを明らかにするアンケート
- ・特徴、傾向などの実態を明らかにするアンケート

2. 区民ニーズの把握について

(メンバー：青木委員、野瀬山委員、伊藤（治）委員、五十嵐委員、伊藤（直）委員、土田委員)

(1) 現状

- ・自治協議会は平日の日中開催
- ・毎月会議を行い地域のニーズを把握

(2) どんな人の意見が必要か

- ・色々な年代　・子ども　・女性

(3) 自治協議会として区民ニーズを把握するには

- ・色々な年代が参加しやすいように自治協議会を土日や夜間に開催
- ・学校で時間を作って意見を出してもらう
- ・直接コミュニケーション：学校へ行く ・飲む機会
- ・それぞれの委員がそれぞれの活動を通じて自分の立場、現場で意見を聞く

3. 自治協議会の認知度向上について

(メンバー：長谷川(隆)委員、坂口委員、荒井委員、坂井委員、花水委員、大貫委員)

(1) 現状

- ・「ひな・お宝めぐり」をしているが、誰がやっているのかわからない

(2) どのような取組で認知度を上げていくのが望ましいか

- ・自治協議会主催をアピール
(開催会場の入口に看板設置、自治協議会主催事業で名札着用、お金をかけてプレゼント作戦)
- ・新津松阪流しへの積極的参加
- ・自治協議会事業の取材に入ってもらい、参加者の意見も拾い放送してもらう

4. 研修に盛り込むことが望ましい内容について

(メンバー：蓮沼委員、加納委員、佐藤委員、木村委員)

(1) 自治協活動においてわからないこと、困ったこと等

- ・自治協議会の役割がわからない
- ・特色ある区づくり予算、提案事業がよくわからない

(2) 研修に盛り込むことが望ましい内容について

- 基礎知識が学べる内容
 - ・自治協委員の役割、行政の取組み、住民ニーズ
- 現状(物・場所・取組み)がわかる内容
 - ・実際に見に行き、秋葉区のよいところ悪いところを知る(フィールドワーク)
- 課題がわかる内容
 - ・市区の課題に関する内容 ・課題に対する対応、問題解決のスキル
- 課題解決の取組みがわかる内容
 - ・先進事例の紹介 ・提案事業への反映
 - ・区の特徴で継続なのか、統合していくのかを検討できる内容
- 基礎→現状把握→課題→課題解決をシステム化した研修内容にする